



ふくおか [Good] 農業人100
 主な農産物 / イチゴ

伊藤 匡史さん (32歳) (営農地 / 遠賀郡岡垣町吉木東)

プレッシャーを乗り越えた先に楽しさがあった

《就農のきっかけ》

農業をやってみたら?と言われて

仕事を辞める予定が先に決まっていたので、次に何の仕事をしようかと考えていた伊藤さん。そのような時、奥さんの両親から「農業をやってみたら?」と言われたことがきっかけで、農業を始めようと思ったそうです。実は、伊藤さんの奥さんの実家はイチゴ農家。研修生の受け入れなど実績がある農家です。「学生の時、妻の実家で10か月くらいアルバイトをしていたことがあって、すごいなあ、こうやって作物って出来るんだ。だけど、これで食べていく(生活していく)って大変だなと思っていました。」農業を始めたときは、「自分に合わなくてダメだったら辞めたらいい」と、思っていたとのこと。「アルバイトと経営するのでは、“責任”が全然違いますね。もう3年半くらい経営者していると、サラリーマンには戻れないです。」と、しっかり経営者としての顔を覗かせます。

《これまでの過程》

1年目はもうやめようと思っていたときも

「始めたときの資金は300万円もなかったくらい。少なくとも厳しかったです。義父は『大丈夫もっと少ない人もいるから』と言っていました。1年目は初期投資がいるし、仕事を辞めたばかりだと支払う税金なども多いので、収入が入るまでは、すごいプレッシャーでした。」と、1年目を振り返ります。イチゴのように収穫時期が決まっていて生鮮で販売する作物は、収入が入ってくる時期と入ってこない時期があり、毎月収入があるサラリーマンとは金銭面の管理が違います。「収入がない期間が長いので、その間はずーっとやめようかなと考えていました。妻から『お金を稼がないダンナはいらぬ』と言われた事が衝撃的でした。」
 「農業は保障がない、作物が出来ても天災でダメになったら、収入はゼロです。収入がないときは、ちょっとの失敗でイライラするし、やめたくなりました。『あ、病気がでた、農薬かけなきゃ、また農薬代がかかる』など。今考えると、気持ちが負のスパイラルに入っていました。」と伊藤さん。苦しかった1年目を超えて、2年目、3年目になると、徐々に上手いくようになったそうです。最近では、近所の高齢のイチゴ農家さんの防除を手伝うなどのエピソードもあり、伊藤さんの優しい人柄が、きっと地域の方々を受け入れられているポイントだろうと感じました。



プロフィール
 ■家族構成 / 本人、妻、子ども2人 ■前職 / 会社員
 ■営農年数 / 約3年半 ■従業員数 / パート1名
 ■耕作(経営)面積 / 0.26ha ■販路 / 観光農園

《これからの展望》

イチゴの味にこだわりたい

「量ではなく、味にこだわりたい。」と話す伊藤さん。今は、イチゴの無農薬栽培を目指して、エコファーマー※1と減農薬・減化学肥料栽培※2に取り組んでいます。新しいことに挑戦できるようになったのも、4年目にして気持ちに余裕が出来たからとのこと。将来は、経営を大きくして自分がいなくても従業員で作業が回るような組織(法人)にしたいです。あと、6次産業化にも取り組みたいです。そのためには自分が作ったイチゴのブランド化に成功しないといけないと思っています。」

※1エコファーマー…平成11年7月に制定された「持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律(持続農業法)」第4条に基づき、「持続性の高い農業生産方式の導入に関する計画」を都道府県知事に提出して、当該導入計画が適当である旨の認定を受けた農業者。
 ※2福岡県減農薬・減化学肥料栽培認証制度…農薬の散布回数(成分回数)が県基準の半以下、かつ化学肥料の使用量も県基準の半以下で、農産物を生産することを認証する制度。



Good 成功のためのポイント

農業を始めるときは、収支計画をきちんと立てることが大事です。そして、1年目から税務署に届けをだして青色申告※3を行うことを勧めます。
 ※3一定水準の記帳をし、その記帳に基づいて正しい申告をする人については、所得税金額の計算などについて有利な取扱いが受けられる青色申告制度(所得税・事業所得)がある。